

**平成27年度放射能調査研究委託事業のうち「農畜産物及び土壤中放射性核種のバックグラウンドレベルの監視」に係る分析業務  
お問い合わせの回答（3月11日時点）**

（質問1）牧草試料の<sup>134</sup>Cs等の分析について、文部科学省科学技術・学術政策局の放射能測定シリーズNo.7「ゲルマニウム半導体検出器によるガンマ線ペクトロメトリー」に基づいて、灰化处理を行っての分析は可能でしょうか。

（回答）灰化处理を行うことにより、計数効率が上がるので、一般的には好ましいと考えられます。ただし、高い放射性セシウム濃度の試料の影響で、灰化处理中に、低い放射性セシウム濃度の試料が汚染されることのないように十分気をつける必要があります。

（質問2）測定項目の分析値について、新鮮重当たりの検出限界値又は乾物重当たりの検出限界値どちらでしょうか。

（回答）農畜産物については新鮮重当たり、土壌については乾物重当たりの検出限界値です。

（質問3）独立行政法人・公設試験研究機関からの試料送付の際、各試料はどのような状態で送付されるのでしょうか。

（回答）それぞれ、以下の通りです。

水稲・・・玄米約15kgが、それぞれの試験場で使用している作物調整用の袋（例；紙、塩ビ、アルミ）に充填されています。

小麦・・・玄麦約6kgが、それぞれの試験場で使用している作物調整用の袋（例；紙、塩ビ、アルミ）に充填されています。

野菜・・・洗浄、乾燥した野菜約1kg（作物は時期によって変動する）が塩ビ製の袋に充填されています。

牛乳・・・灰化处理した試料約30g前後が、サンプラテック社製の丸形シール容器（80丸-2）に入っています。

飼料及び牧草・・・粉砕・風乾された試料が2Lマリネリ容器に充填されており、また、予備試料500gが90L容量のビニール袋にまとめられています。

水田土壌及び畑土壌・・・風乾・篩をかけた土壌約2L（風乾重で約2kg）がビニール袋にまとめられています。

牧草地土壌・・・・・・・・風乾・篩をかけた土壌約2L（風乾重で約2kg）が2Lマリネリ容器に充填されており、また、予備試料500gが90L容量のビニール袋にまとめられています。

（質問4）核種分析の分析点数を教えてください。

（回答）別紙の表をご参照ください。なお、野菜の畑土壌については、ストロンチウム及び安定核種、土壌交換態画分の分析は不要です。

（質問5）委託契約書第5条で再委託の禁止が謳われていますが、試料の灰化处理を他者に外注することは再委託にあたるでしょうか。

(回答) 再委託とは事業の主たる部分を他者に委託する場合をいいますが、試料の灰化処理は当該事業の主たる部分である分析業務を行う上で発生する付随的な業務で、他者に外注した方が効率的に事業を遂行出来る場合は、雑務役費として業務を外注して頂いても結構です。

(質問6) 委託契約書別紙様式第1号「委託事業契約書」3 支払計画(概算請求限度額)について、四半期毎に精算を行う必要があるのでしょうか。(事務手続きの緩和のため、) 第4四半期にまとめて精算することは可能でしょうか。

(回答) 概算払については農林水産大臣と財務大臣との協議が調った場合には、事業実施期間内に一部又は全部を概算払として支払うことが出来ます。その場合、概算払の請求の時期は四半期毎でも第4四半期にまとめてでもどちらでも結構です。

## 核種分析の点数

 $^{137}\text{Cs}$ 、 $^{134}\text{Cs}$ 、 $^{40}\text{K}$ 、 $^{210}\text{Pb}$ 、 $^{214}\text{Pb}$ 、 $^{228}\text{Ac}$ (1度に測定可) 単位 Bq/kg

項目、()内は検出下限値	分析点数
玄米(0.05)	14
白米(0.02)	14
米糠(0.05)	14
玄麦(0.04)	7
野菜(0.5)	1
牛乳(0.02)	6
飼料(0.05)	30
牧草(0.05)	3
水田土壌(1)	14
水田土壌交換態画分(0.1)	14
畑土壌(1)	8
畑土壌交換態画分(0.1)	7
牧草土壌(1)	3

 $^{88}\text{Sr}$ 、 $^{133}\text{Cs}$ (1度に測定可) 単位 mg/kg

項目、()内は検出下限値	分析点数
白米(0.0005)	14
玄麦(0.0005)	7
水田土壌(0.05)	14
畑土壌(0.05)	7

 $^{90}\text{Sr}$ 

単位 Bq/kg

項目、()内は検出下限値	分析点数
白米(0.02)	14
玄麦(0.02)	7
牛乳(0.01)	6
水田土壌(0.5)	14
畑土壌(0.5)	7